

連携室たより

第 62 号

平成 26 年 4 月 1 日
出雲市姫原 4 丁目 1 番地 1
島根県立中央病院 地域医療連携室
医療連携・医療相談科

TEL 0853-30-6500
FAX 0853-30-6508



心臓血管外科の紹介

心臓血管外科部長 山内 正信



当科のスタッフは、中山健吾院長（S52 年卒）、山内（S60 年卒）、上平聡医師（S63 年卒）、花田智樹医師（H3 年卒）の 4 人で、全員が心臓血管外科専門医資格を有しており、安心して治療受けることができます。中山院長は、超多忙なため、もっぱら外来診療のみですが、あとの 3 人で外来、手術、病棟診療を行っています。

表にこの 3 年間の当科の手術の内訳を示します。最近の傾向としては、DES(薬剤溶出性ステント)を用いた PCI(冠動脈内ステント留置)により多くの患者さんが治療可能となっているため、冠動脈バイパス術の症例数は横ばい状態ですが、その分、患者が重症化しており、人工心肺・心拍動下の冠動脈バイパス術の割合

心臓血管外科における症例数 (H22 年 - H24 年)

冠動脈バイパス術	46	胸部大動脈瘤・解離	66
心臓弁膜症	68	胸部ステントグラフト	43
先天性心疾患	7	腹部大動脈瘤	72
末梢動脈	194	腹部ステントグラフト	51
静脈瘤	36		

が増えていきます。一方、心臓弁膜症では、80 才以上の大動脈弁狭窄症が増えていますが、重症大動脈弁狭窄症に対しては内科的治療が無効なため、生体弁を用いた大動脈弁置換術を積極的に行っています。さらに僧帽弁閉鎖不全症に対しても、弁形成術を第一選択として行っています。高齢化に伴い、増加しつつある胸部・腹部大動脈瘤に対しては低侵襲のステントグラフト導入により適応範囲が広がったため、手術件数が大幅に増えています。特にステントグラフト指導医の上平医師の着任後、米子や松江、県西部からステントグラフト内挿術目的でドクターヘリ搬送されてくる患者さんが増えました。末梢動脈疾患では、低侵襲かつ短期間の入院で済むステント留置術を積極的に行い、CTO(慢性閉塞動脈病変)に対しても、可能な限りステント治療を行っています。静脈瘤に対しては、従来通りストリッピング術を行っていますが、来年度に患者さんからの要望の多い下肢静脈瘤血管内レーザー治療を導入予定です。

このように当科は新しい治療法をどんどん取り入れ、島根県民の期待に応えたいと思っています。

認定看護師の紹介コーナー



感染管理認定看護師

医療安全推進室 看護師長 妹尾 千賀子



私は、感染管理認定看護師として、病院全体の感染管理を担当しています。認定看護師とは、日本看護協会が認定する特定の看護分野で専門的な知識と技術を持つ看護師です。半年間認定看護師の教育機関で学び、認定審査に合格すると認定されます。現在 21 分野があり、島根県立中央病院では、13 分野 15 人の認定看護師がいます。私は、この認定資格を 2006 年に取得し、2010 年から医療安全推進室で感染管理の仕事を専従で行っています。病院内では、医師、薬剤師、臨床検査技師、事務など多職種の職員が協力し合い、インフェクションコントロールチームとして活動しています。

病院の感染管理の仕事は、患者さん、職員だけでなく、面会の方も含めた病院を訪れるすべての人を感染から守ることで、病院には、感染症のために入院している人、逆に抵抗力が弱くなり感染をおこしやすい状態になっている人の両方の患者さんがいらっしゃいます。そして、感染は目に見えない細菌やウイルスによって起こります。病院内で問題となる薬がききにくく治療が困難な細菌や、インフルエンザやノロウイルスなど感染力の強いウイルスが院内に広がらないように、日々監視と現場での対策の指導、確認をするのが主な仕事です。感染対策は早期発見早期対処が鉄則ですので、院内感染の発生を見逃さないように努めています。

このような院内での活動以外に、地域の他病院のインフェクションコントロールチームと連携して感染対策の合同カンファレンスを開いたり、相互にチェックをし合ったり、地域で感染を防止する活動も進めています。その他、地域の病院や施設等から感染対策の相談を受けたり、依頼に応じて勉強会を行ったりもしています。これからの感染対策はそれぞれの施設が個別に取り組むだけではなく、連携を取りながら地域ぐるみで行っていくことが地域全体の感染防止のレベル UP につながっていくと考え活動しています。



～インフェクションコントロールチーム
ラウンドの様子～



がん相談支援センター

広報活動
を実施
しました

全国のがん診療連携拠点病院に指定されている病院にはがん相談支援センターが設置されており、がん相談員が患者・家族・地域住民のがんに関する様々な相談に対応しています。今回、より多くの方のがん相談支援センターを利用して頂くため、当院利用者を対象に1月23日に広報活動を実施いたしました。

来院者が多い午前中の約2時間、病院1階でがん相談支援センタースタッフやがん看護領域の認定看護師が来院中の約500名にチラシを配った他、ホールではがん相談支援センターのポスター掲示、がん関係のパンフレット類の展示配布を行いました。



当院では今年1月より新たに乳がん、がん化学療法看護、がん性疼痛看護、緩和ケアの各認定看護師が相談に加わり、より専門的な医療・看護・福祉相談に対応できるよう体制を強化しています。がん相談支援センターへの相談は、医療機関への受診の有無は問わず、電話での相談もお受けしています。

病気や副作用について知りたい、セカンドオピニオンを受けたい、医療費や生活費が不安、自宅で医療・福祉サービスを利用したいなどがんに関する悩みをお持ちの方がいらっしゃいましたらぜひご紹介ください。



地域医療連携の状況

日頃は患者様のご紹介をいただきありがとうございます。
紹介率・逆紹介率を上げて、地域との連携を深めていきたいと思っておりますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



紹介件数、ネット・FAX 利用状況				
	紹介件数	ネット・FAX 利用状況 (内数)		
		まめネット	FAX 予約	
			診療	検査
平成 25 年 12 月	1,260	129	213	76
平成 26 年 1 月	1,396	159	259	73
2 月	1,314	175	250	66